

気づき合う講座『ダイバーシティ・スイッチ』 「ダイバーシティの視点で考える」開催報告



2018年10月20日(土)にアスト津のみえ市民活動ボランティアセンターにて、今年度第5回目となる気づき合う講座「ダイバーシティ・スイッチ」(主催:三重県)を開催しました。当日は、企業、行政、NPO、個人などさまざまな26名が参加し、ワークショップ「ダイバーシティを活かすアイデアをつくろう!」を通して、ダイバーシティについて考えました。

ダイバーシティの視点で考える

多様な人がそれぞれの個性を活かし活躍できる場や仕組みがあれば、組織や地域はもっと強くなります。第5回目のワークショップでは「ダイバーシティを活かすアイデアをつくろう!」をテーマに、アイデア創出のフレームワーク「アイデア理論・じぶんワークBiz」を使って、例えば、みんなが楽しめるようにするためにはどうしたらいいかなどダイバーシティの視点を取り入れたアイデア・企画の作り方を実践的に学びました。普段の仕事や地域活動を進めるときに、多様性を尊重しながら価値として活かす視点を学びました。



ダイバーシティ・スイッチとは...

三重県では、一人ひとりが尊重され、多様性が受容され、違った個性や能力を持つ一人ひとりがよい意味で互いに影響し合うことで、相乗効果を社会に生み出す「ダイバーシティ&インクルージョン」の意味も込めて「ダイバーシティ」の言葉を使用しています。「スイッチ」は「切り替え」という意味です。今年度は、社会の多様性を知り、他者との対話でふり返る(視点や考え方を切り替える)講座を通して、自分や地域社会の中にあつた偏見や固定観念に気づき、多様な社会に切り替えていく気づきの場として「ダイバーシティ・スイッチ」(全5回)を開催しています。



講師／高本昌宏（たかもと・まさひろ）氏

一般財団法人ひらめき財団 理事

1971年生まれ。同志社大学経済学部卒。サントリー（株）、アップルコンピュータ（株）、日系技術ベンチャー等で製品の企画開発、マーケティング等に携わる。2008年からロゼッタストーン・ジャパン（株）の国内流通・マーケティング事業立上に参画。2010年5月、同社内における世界最優秀セールスマンメンバーに選出。2012年4月から現職。2017年ライトヒアライトナウ合同会社参画。アイデア理論「じぶんワークBiz」を開発。

「ダイバーシティは、女性や外国人の社会参画だけを指す言葉ではありません。違う価値観を持つ人同士が向き合い、対話を重ねながら、新しい価値を創っていくことが重要です。まずは職場や学校など日常の仲間から意識してほしい」と高本さん。当日は、ひらめき財団が開発した「アイデア理論」（誰でもアイデアが出せるメソッド）を使いながら、受講者それぞれが、自分や他者の中にあるダイバーシティを活かすアイデアを考えるワークショップを実施しました。

話題をひらめく

まずはグループ内で3種類のサイコロを使った自己紹介をしました。3つのサイコロにはそれぞれ①行動（例：国内旅行/仕事…など）、②視点（例：で体験した/で楽しかった…など）、③アイデア（例：体験/思い出…など）のキーワードが書かれています。受講者は、3つのサイコロを同時に振り、出た目のキーワードを組み合わせて自己紹介を、そのテーマについて個人の体験や考えを語ることで、発想を促すという体験をしました。また脳を活性化させるために、立ちながら行ったことで、みなさん初対面にも関わらず活気のある雰囲気生まれていました。

アイデアの秘密を分解しよう

「アイデアを出ることができる人が行っているのは『分解』です」と高本さん。分解するときの要素は「行動×誰のため×モノやコト」の3つです（例えば、「食堂」は、「食事/したい人のための/お店」と分解できます）。複雑なアイデアもこの3つに分解することで、シンプルに見えてくるといいます。

例えば「ガソリン代を節約/したい人のための/車」（答：エコカー）、「格安移動/したい人のための/航空会社」（答：LCC）など、実際にある事例を3つの要素に分解し、それがどのサービスを指すかを考えるワークを実施しながら、アイデアを構成する要素を学びました。

「仲間」×「アイデア」

アイデアをたくさん考えるワークにも挑戦しました。ワークでは、3種類のサイコロを振り、出た目（キーワード）を組み合わせたテーマについて、グループ全員がアイデアを考えました。「アイデアを具現化するために重要なのは、一人ではなく仲間と一緒に考えることです」と高本さん。サイコロの出た目から連想す

る場面は、各人によって様々であり、一人ひとりの多様な経験や知識を組み合わせることで、アイデアの幅や具体性が広がります。また発想を促す工夫として「①否定しない、②空気を読まずにどんどん話す、③深掘りしない、④『難しい』などマイナスの言葉を使わない」という4つのルールを設けました。制限時間15分間で50個近くのアイデアが生まれたグループもあり、例えば「食事/ができない人向けの/スマホアプリ」というサイコロの目から「音楽療法を活用し、音を使って料理の味を感じるアプリ」などのアイデアが生まれていました。

ダイバーシティを活かすアイデアを考える

ひらめき財団では、アイデアとは「人の欲求に応えてくれるモノやコト」と捉えているそうです。人はそれぞれ価値観も欲求も違うのが当たり前で、アイデアを考えるときには『誰の、どういう欲求を満たすものか』をはっきりさせることが重要になります。そこで、ひらめき財団が開発した人間の欲求が書かれた「欲求カード」を各グループに1セットずつ配り、自分が大切にしている順番に並べるというワークを実施しました。「他者の価値観や欲求を尊重するには、まずは自分の価値観や欲求を知らないといけません」と高本さん。受講者らは、自分が大切にする価値観を改めて見直し、カードを見せ合うことで他者の価値観を知る時間を過ごしました。

最後のワークでは、カードの上位に位置した自分の欲求をベースに、自分が実現したいアイデアをワークシートへ記入していきました。受講者からは「マイノリティ・マジョリティの境界をなくし、ダイバーシティ&インクルージョンを目指すために小学校の教育から学べる仕組みを作りたい」などのアイデアが生まれていました。高本さんは最後、「アイデアが実現しない一番大きな理由は『一人で抱え込むこと』。アイデアは一人で考えると視野が狭くなります。ぜひ周りの仲間にシェアして、アイデアをもらいながら、自分のやりたいことを実現させてほしい」と受講者にエールをもらいました。

「より良いアイデアを創るために多様な仲間と一緒に考える」「他者を理解するために、まず自分を理解する」など、日常生活でダイバーシティを活かしていくための具体的なコツやヒントを多く学ぶことができるワークショップとなりました。

★「三重県がめざすダイバーシティ社会」とは…

「性別、年齢、障がいの有無、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などにかかわらず、一人ひとりが違った個性や能力を持つ個人として尊重され、誰もが希望をもって日々自分らしく生きられる、誰もが自分の目標に向けて挑戦できる、誰もが能力を発揮し、参画・活躍できる社会」と定義しています。